



# MARIO GIACOMELLI

マリオ・ジャコメッリ展

15 MARCH 2008 – 6 MAY 2008  
[MONDAY CLOSED/EXCEPT 5 MAY]  
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM  
OF PHOTOGRAPHY/10:00 to 18:00  
THURSDAY & FRIDAY OPEN 10:00 to 20:00

2008年3月15日(土)～5月6日(火) 月曜日休館 [但し5月5日(月・祝)は開館]  
東京都写真美術館 開館時間：10:00～18:00 (木・金曜日は20:00まで、入館は閉館の30分前まで)  
入場料金：一般 1,000(800)円 / 学生 800(640)円 / 中高生・65歳以上 600(480)円 (第3水曜日は65歳以上無料)  
※( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料  
主催：朝日新聞社、conversation、IADHT 共催：東京都写真美術館 後援：イタリア文化会館 お問い合わせ：カンパセーション TEL 03-5280-9996



また見つかった、永遠が。

知られざる鬼才  
マリオ・ジャコメッリ展

# MARIO GIACOMELLI

15 MARCH 2008 – 6 MAY 2008 [MONDAY CLOSED/EXCEPT 5 MAY]  
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY/EXHIBITION GALLERY, 2F  
10:00 to 18:00/THURSDAY & FRIDAY OPEN 10:00 to 20:00



東京都写真美術館



# MARIO GIACOMELLI

15 MARCH 2008 – 6 MAY 2008 [MONDAY CLOSED/EXCEPT 5 MAY]  
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY/EXHIBITION GALLERY, 2F

## 知られざるマリオ・ジャコメッリ



1950年代から写真を撮り始め2000年にその生涯を閉じたイタリアの写真家マリオ・ジャコメッリは、戦後の写真界を代表する写真家の一人です。その長い活動期間と欧米での高い評価に較べると、我が国において知られることの少ない写真家と言えます。イタリア北東部のセニガリアで生まれ、ほとんどの作品をその街で撮り続けたアマチュア写真家です。まとまった展覧会としては日本初となる本展では、「ホスピス」「スカンノ」「若き司祭たち」「風景」といった代表作のシリーズはもちろん、最晩年のシリーズまでも網羅し、強烈なハイ・コントラストで「死」と「生」に立ち向かい、孤高の写真表現で現実(リアル)を抽象化した「ジャコメッリの世界」をご紹介します。

今、日本ではジャコメッリと同じ2000年に亡くなった植田正治や、その2年後に亡くなった緑川洋一といった地方に根を下ろして作家活動を行ったアマチュア写真家が見直されています。一地方に腰を据えた作風はイメージを素早く作り消費しようとする待ちかまえる都会的趣向にそぐわない面がありました。じっくりと凝視を求める作風とも言えます。ジャコメッリの作品からは詩や絵画に近い語法を読み取られるかも知れません。そのように見えることもまた写真表現の持つ豊かなさなのです。ぜひこの機会に我が国では「知られざる写真界の巨人」であり、「黒」と「白」とを見事に操り、内面に胚胎した思いを表現しつづけたジャコメッリの写真群をご鑑賞下さい。

### ジャコメッリは心を乱す

多木浩二 / 美術・写真評論家

2000年に死んだこの写真家は、おそらく写真家のなかではもっとも複雑な深さのなかでイメージを作っていた。ある文化を身につけ、それによって非常にゆたかな表現の可能性をえているが、そのさまざまな歴史が縫(もつ)れながら、ジャコメッリのイメージに流れ込んでいる。それはわれわれの存在の深層を貫いて心を乱すのである。

### マリオ・ジャコメッリへのオマージュ

細江英公 / 写真家

マリオ・ジャコメッリは、「いまを永遠に」「永遠をいまに」という写真家の願望を具現化した20世紀最高の写真家の一人だ。そして、いま、時空を超越した写真がここにある。

### 妥協を許さぬ迫力

ハービー・山口 / 写真家

なんという強さで人間の、または自分自身の内面をえぐる作品を写し出した作家だろうか。世間の一切の商業主義を排したところできし得ぬ、彼独特の深淵の世界が、見る者に妥協を許さぬ迫力で迫ってくる。彼は日本ではそれ程知られた存在ではないが、世界で最も真摯に「生と死」を切り取った写真家の一人ではないだろうか。

### 高潔な美しさ

福山雅治 / アーティスト

絶望や失望さえ美しく切り取ってしまう。  
『死』とは恐れだけではなく  
高潔な美しさも併せ持つのだと教えられた気がする。

## マリオ・ジャコメッリの「黒」と「白」の世界

右上：「ホスピス」より  
左上：初期作品群より「風景の中のノード」  
右中：「この懐い出をきみに伝えん」より  
右下：「若き司祭たち」より  
左下：「風景」より



### 主な作品

ジャコメッリの作品は最初期のものを除くと全て複数の写真によって構成される。またその多くが何年にも渡る時間経過を経て撮られた写真群によって構成されている。

代表作とされるのは「ホスピス」(1954-83)、「風景」(1954-2000)、「スカンノ」(1957,59)、「若き司祭たち」(1961-63) それに連作となった「この懐い出をきみに伝えん」(1998-2000)だ。「ホスピス」は母が下働きをしていたので幼少期から出入りし、ジャコメッリの終生のテーマである「死と生」が胚胎した場所にカメラを持ち込んだものだ。「風景」では休耕地にあたかもアースワークのように思えるままの軌を作り、空撮も行った遠近感を除去した抽象的画構成により大地の内包する「死と生」に立ち向かった。「スカンノ」はイタリア中央部の古邑を2度訪れ、中世以来変化の無いように見える村を撮った。「若き司祭たち」は神に捧げた生涯のまだ入り口にいる若者の宿命を幻想的に呈示している。連作ではセルフタイマーによって写真家自身も登場する。



表面：  
「若き司祭たち」より  
裏面：  
「スカンノ」より

※使用しているタイトルには通称を含んでいます。



東京都写真美術館  
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
電話 03-3280-0099 URL: <http://www.syabi.com>

JR 恵比寿駅東口改札より徒歩7分。東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。  
当館には専用駐車場はございません。お車でのご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください

All photos © Giacomelli estates